

むすび

～「神戸2015ビジョン」の実現に向けて～

第5次神戸市基本計画を構成する計画のひとつとしてここに策定した「神戸2015ビジョン」は、社会経済情勢をふまえ、これまでにない新しい取り組みや、これまで以上にさらに拡充する取り組みを中心に位置づけた、5年間の具体的な実行計画である。この計画に位置づけた施策・事業を着実に推進し、目標として掲げた「くらし・経済の向上」「新たな価値・魅力の創出」を実現する上で欠かすことのできない視点として、次の2点を本計画のむすびとして挙げる。

着実な進行管理

本計画は、前身にあたる「神戸2010ビジョン」での進行管理による経験や成果をふまえ、毎年度PDCAサイクルによる検証・評価や、それに基づく改善・改革を進めながら計画を着実に推進していく。

またPDCAサイクルにおける検証・評価の結果や社会経済情勢の変化等をふまえ、計画期間中であっても柔軟かつ機動的に計画の見直しを行うこととする。

こうした取り組みを通じ、行政は、行政改革や人材育成を進め、より効率的で質の高い市政運営を実行していく。市民・大学等・事業者は、計画の進捗に関心を持ち、改善に向けた意見を表明するなど、自ら計画の実践者として主体的に参画する。

協働と参画のより一層の推進 ～“協創”による計画実現

「神戸づくりの指針」においては、都市ぐるみで「ひと（人）」を「たから（財）」と捉え、多様な「人財」が集い・交わり・活きるまちづくりを進めるとともに、それら「人財」のきずなを深めながら協働と参画をさらに発展的に推進し、新たな豊かさを創造していく姿をめざすこととし、この姿を“協創”と呼んでいる。

「神戸2015ビジョン」は、この“協創”の実現をめざして、市民・大学等・事業者・行政の各主体が力をあわせて取り組む実行計画と位置づけられる。

「神戸2015ビジョン」の計画期間中に、1995年の阪神・淡路大震災から20年という節目の年を迎える。震災からの復旧・復興に協働で取り組んできたこれまでの歩みを活かし、震災から得た多くの教訓を次の世代に受け継ぐとともに、よりよい明日の神戸をめざして、この「神戸2015ビジョン」を実行し、“協創”のまちづくりを進めていく。

参考 各区計画の概要

1. 位置づけ

各区計画は、基本構想の実現のための基本計画の一部を構成し、「神戸づくりの指針」および「神戸2015ビジョン」と相互に連携しながら一体的にその内容に取り組んでいく。

2. 考え方

各区計画は、各区の個性や特性を活かし、生活に密着した分野を中心に、区民と目標を共有し協働で取り組むための計画として、区民や地域団体等の意見を聞きながら、各区の区民まちづくり会議が中心となって素案を策定した。

各区計画の推進にあたっては、区民まちづくり会議が検証・評価し、その結果を踏まえて改善に取り組むPDCAサイクルにより計画の進行管理を行う。

<参考> 区民まちづくり会議

区のまちづくりについて、区民が自ら話し合うとともに、区民の創意や活力を生かした各種の実践活動を進め、市民・事業者・行政による協働のまちづくりを地域から先導する場として平成6年に設置した。1期2年単位で、地縁団体やボランティア、NPO、大学関係者など多様な市民層から、各区ごとに約50人前後の委員を市長より委嘱しており、区民活動の企画・検討や実践、市政への提言などに取り組んでいる。